～ ニューヨーク補習授業校だより ～

JWSNYの爽風

令和３年(2021)
７月１０日発行

Breeze
第７号

校長 川崎淳一郎

ＬＩ校生徒会・中高等部の活動紹介！～卒業生の体験談　特集No. ４～

【音読プロジェクト】＜高等部2年生ボランティアの活動＞

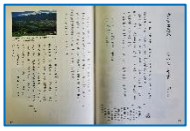
・ＬＩ校初等部の児童のために高等部の８名の生徒が、小学校４年生から６年生の教科書を範読するボランティア活動に応募してくれました！様々な児童や家庭の状況を考えて、ゆっくり、ハッキリ、ていねいに言葉のまとまりや区切りを大切にして練習しています。パワーポイントを使って作成し、児童がいつでも聞いたり、練習したりできるようになります。素晴らしい取組を進めていただいている生徒の皆さん、先生方に感謝いたします！


①福田徳道さん

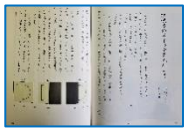

②山口 浩くん

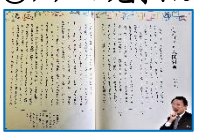

③ 小倉真那さん

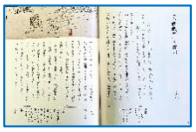

④山岡龍生くん

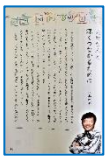

⑤サリバン光博くん


⑥松浦旬児くん


⑦先生有志


⑧市川 華さん


⑨山崎でぃ那さん


⑩先生有志

①4年「世界にほこる和紙」②４年「ウナギのなぞを追って」
③4年「プラタナスの木」④5年「固有種が教えてくれること」
⑤5年「アンパンマンの勇気」⑥5年「たずねびと」
⑦5年「想像力のスイッチを入れよう」
⑧6年「メディアと人間社会」⑩6年「『鳥獣戯画』を読む」
⑨6年「大切な人と深くつながるために」を読む」

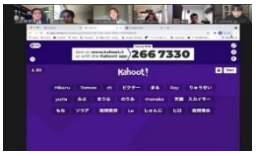
☆幼児部や初等部から高等部まで長く通って互いに絆を深めて来たＬＩ校の思いやりのある取組です。

【ＬＩ校の生徒会活動】

・ＨＰの校長挨拶の中で、「特色として、中高等部では、生徒会活動の中で子どもたちが自主的に企画した活動を積極的に取り入れるなど、生徒の自己肯定感や自己有用感を育てることにも力を入れております。」と書かせていただきました。年間の限られた時間の中で先輩が後輩のためによりよい企画で盛り上げて、自分も「あのような先輩になりたい！」と後輩が思う、素晴らしい取組が行われています。

◇生徒会会長：高等部２年サリバン光博くん、副会長：高等部２年山崎でぃ那さん、高等部１年佐伯穂ノ子さん、書記：高等部２年政岡璃央くん、中等部３年山岡愛生さん、会計：高等部２年小倉真那さん、６名を中心に各学年のクラス委員で、次のように２０２１年（予定）で活動を進めています。

（1）中高等部生徒カーフートクイズ大会　→　生徒一人一人に関する問題を出題
（2）LI インスタグラムによる中高生徒の活動紹介
（3）補習校ラジオ（計画中）インタビューなどの動画をLI インスタグラムでアップ
（4）運動会の応援合戦(例年は、赤組、白組の後輩の園児、児童、生徒をまとめる。)
　　今年度は、中高等部運動会（スポーツレク）でのパフォーマンス
（5）中高等部球技大会、ハロウィン仮装大会など
（6）バザーによる募金活動（被災地の再建や子ども達への寄付など）
（7）卒業生を祝う会の企画、出し物など







【ＬＩ 校卒業生の体験談 ②】～ ＬＩ校中高等部の生徒の行事 ～
“卒業生の話を聞く会”からの抜粋

※2021 年１月にＬＩ校で実施

・小学校５年生から補習校に通い始めた。ダートマス大学を卒業し、今はウォータールー大学量子コンピューター博士課程に在籍している。日本語を勉強していて良かったことは言葉の習得以外にも、週６頑張れるという習慣がついたことであり、小さなことかもしれないが非常に役にたっている。今は日常生活で日本語を使える機会が減ったので、使える環境にある人が羨ましい。ラボで研究しているので、コロナ下ではラボに入れる人数が決まっている。8 人いるところだが、2 人しいか入れないので、チーム感覚を保つのが難しい状況に思う。この状況下で研究が遅くなった。日本の大学も考えたが、どこにいっても目指す勉強はできると思う。自分の場合は、簡単に言うと友達がみんなこちらにいるので、地球の反対にいくことは考えなかった。キャリアによるが、どちらに進んでも役に立つと思う。「大学へのエッセイは補習校のことを書いた方が良いか」は、課題やストーリーの内容にもよるが、「自分に正直なエッセイが書けるか」が鍵である。補習校や日本語、日本文化が自分にとって大切なことであれば、もちろん書いた方がいい。あまり自分にとって重要でなければ他のことを書いた方が良いと思う。バイリンガルであることは素晴らしいが、それだけでは不十分。周りにはバイリンガル、トライリンガルはたくさんいる。単に言葉ができるという、それだけでは正直いうと目立てない。

（2014 年卒　カナダ・ウォータールー大学量子コンピューター博士課程）

・補習校は幼児部から高等部まで通った。クリエイティブライティング、歴史を勉強している。読書や歴史も含めて言葉に関する興味があり、研究をしている。やりたいことをやること、やれるようになったということが自分にはものすごく大切なことであり、日本語を話せるだけではなく、日本人としての感性が補習校で育てられた。話の内容や、社会性、背景まで理解できるようになったのは家庭で日本語を使い、そして補習校で学んできたからである。

ニュースも読めるだけでなく、新聞やブログなどもどのようなことを思ってこのような言葉を使ったのかが理解でき、自己形成に役に立ってきたと思う。物語を書くことがあるが、日本語を接し、「一人称」の使い方が分かったりするなど日本語ならではの表現が興味深い。卒業してからも日本人としての考えが強く出てきている。

今は、Zoom など人と接することが難しい世の中であるが、好きなことを通じて、日本語に触れることが多く卒業後も漢字や表現など勉強し、将来の投資になっている。

今の生活は、元から文系なので勉強する場所が寮から家になったことが変化したことである。人と会って会話して、課題に取り組むことが大事だが、寮にこもりがちになってしまったので、一時的に帰ってきた。先生達もコロナの影響が多く、年齢が恒例の先生方は、メールやパソコンの文字をチェックするのが大変なようだ。　→（続く）

→　その中でも自分なりにけじめをつけて、コロナ下であっても自分の生活をできる限り自分でコントロールしていきたいと思っている。

ビンガムトン大学に進学したのは、補習校関係者も通っていたり、知り合いがいたりと人間関係も大きい。行った時に面白い教授がいて、この人の授業を受けたいと思った。また奨学金プログラムの関係で、州立大学の中で、車で３時間かかるが自分に合うところで価値があると感じた。日本の大学も考えたが、どちらに住むかというとアメリカかと思った。交換留学制度もあるので、いろいろな選択肢を残している。やりたいことを優先し、どこにしようかなと思った時にやはりアメリカの大学だった。

キャンパスライフでは、寮の建物のコミュニティーが強く、生徒の寮長もいて相談や階ごとのイベントの企画をしている。寮でサッカーやアメフトなどやっていて、つながりが強い。やりたいことが見つかるのが大学のいいところ、借りられる部屋もあるので、やりたいことが見つからなければ同じ感性を持った人も多いので自分で作ればいいと思う。怖がらずにできることをやっていくといいと思う。

「大学へのエッセイは補習校のことを書いた方が良いか」は、アイデンティを表すものがエッセイなので、もちろんプラスαにはなる。ただし、他に書きたいことがあったらそれほどまでに執着する必要はない。自分が考えていること、やりたいことを表していくのがカレッジエッセイである。無理して書かない。自分を表現できる大学に受かる事が大事である。

話せるのと理解できるのは違う。裏の、ニュアンスを理解できるくらい日本語に向き合ってきた経験は大切である。スピーチ大会、話す機会、敬語使う補習校経験してきたからこそできることがある。補習校でスピーチしたり、話す機会があったので初対面でも上手く話すスキルも磨かれた。敬語など日本人にあった時にどのように対応するかも自然とできるようになった。面接は自分をアピールする機会、バイリンガルであることはいろいろな感性、視点が持てるということが重要である。

アメリカの大学場合、授業に参加するにも全部自分に責任がかかってくる。生活をどのように授業を中心に組み込んでいくか。ランチの時間なども時間の管理を自分で考える。だれも面倒を見てくれないので、聞くことをおそれない。自分から話しかけて、人に相談すれば助けてくれる人が必ずいる。人間環境、同棲環境を整える。自分の身の回りの世話は自分ですることが大事である。

（2018 年卒　ビンガムトン大学３年生）



【夏休みに向けて～　園児・児童・生徒のみなさんへ】 7/11~8/13



・補習校の１期が終了します。オンライン授業で、いろいろなことを学ぶことができたと思います。さあ、夏休みです！オンラインではできないことに挑戦してみてください。運動やウォーキング、読書や調べ物など、そこでわかったことや気づいたことなどを作文、日記などに書いて、思い出作りをしましょう！　学校が始まったら、友達や先生に話してみてください。

８月１４日に、みなさんの元気で健康な笑顔に会えることを楽しみにしています。よい夏休みを！！